

平成29年7月

各 位

八戸市東京事務所長

## 八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート 平成29年7月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

真夏の JAZZ の祭典、第28回南郷サマージャズフェスティバルが、今年も、7月29日（土）カッコーの森エコーランド野外ステージで開催されます。

今年は、ジャズ界を牽引してきた“世界のナベサダ”ことサックス奏者渡辺貞夫と、卓越した演奏で熱いステージを繰り広げるミュージシャン達が結集します。

地元の市立中沢中学校のジャズバンド部もプロの前座として出演します。

また、会場には屋台村も出展しますので、南郷の味を楽しみながら、真夏の野外フェスの醍醐味をご堪能ください。

■第28回南郷サマージャズフェスティバルの詳細はこちら（市ホームページ）

<https://www.city.hachinohe.aomori.jp/index.cfm/27,102299,475,html>

■八戸三社大祭のおしらせ（市ホームページ）

※今年は、通常の日程を一日延長し、8月5日（土）に「ユネスコ無形文化遺産登録記念祭」を開催します！

<https://www.city.hachinohe.aomori.jp/kanko/festival/sansya>

### ◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: [tokyo@city.hachinohe.aomori.jp](mailto:tokyo@city.hachinohe.aomori.jp)

# 八戸 7月号 レポート

平成29年6月の八戸市内での出来事や八戸市に関連する情報をお届けします。

## 【行政】

記事	概要
(1)	八戸市の北米訪問団 津波で流失の鳥居 関係者に謝意
(2)	八戸市の北米訪問団 シアトル市へ地場産品売り込み
(3)	スケート国際大会招致ならず
(4)	八戸ブックセンター 半年間で来館者10.8万人
(5)	是川遺跡 世界遺産登録へ機運醸成
(6)	八戸市 飲酒運転根絶条例制定
(7)	八戸三社大祭の担い手確保へ 副読本作成
(8)	八戸市長選 10月22日に投開票
(9)	伝統野菜「糠塚きゅうり」新手法 露地でも生育早く収穫

## 【産業】

記事	概要
(10)	八戸港からリンゴ輸出 香港へ試験的に海上輸送
(11)	八戸港から香港へ リンゴ試験輸出始まる
(12)	スルメイカ漁始まる ～願う豊漁「今年こそ」～

## 【地域】

記事	概要
(13)	マナー・プロトコール検定1級に八戸グランドホテル顧問の高畑さん合格 (県人初)
(14)	災害時探索ロボット 八戸高専などが開発
(15)	2015年がん死亡率 青森県男女がワースト
(16)	元小学校校長の溝江さん 環境教育に長年尽力し環境大臣表彰

## 【文化・スポーツ】

記事	概要
(17)	JFAが八戸で青森県初のタウンミーティング開催
(18)	元宝塚・北翔海莉さん八戸公演開催 ～圧巻の舞台 観客魅了～
(19)	八戸三社大祭 無形文化遺産登録記念 山車図柄のトランプ誕生
(20)	五輪レスリング女子4連覇の伊調馨選手に「ギネス世界記録」の認定証

## 【行政】

記事	概要
(1)	<p><b>八戸市の北米訪問団 津波で流失の鳥居 関係者に謝意</b></p> <p>八戸市の北米訪問団は、現地時間の5月30日、北米訪問団はオレゴン州のポートランド日本庭園を訪れ、東日本大震災の津波で大久喜漁港内の厳島神社から流失し、同州に流れついた鳥居の返還、再建を支援した関係者に謝意を示した。姉妹都市交流事業でワシントン州フェデラルウェイ市を訪れている八戸の中学生らも合流し、震災がつかない日米の絆を確かめ合った。</p>
(2)	<p><b>八戸市の北米訪問団 シアトル市へ地場産品売り込み</b></p> <p>八戸市の北米訪問団は現地時間の5月31日、米国ワシントン州シアトル市を中心とした地域での地場産品の販路拡大に向け、在シアトル日本国総領事公邸で「シアトルプロモーション」を開いた。今回は、八戸圏域連携中枢都市圏事業として、洋菓子店「アルパジョン」（八戸市）、ニンニク商品の製造・販売を手掛ける「たから」（田子町）、酒造メーカー「桃川」（おいらせ町）が参加。商談会や米国人向けに工夫した創作料理の試食会を通じ、八戸と近隣町の食をPRした。</p>
(3)	<p><b>スケート国際大会招致ならず</b></p> <p>八戸市が2019年秋完成予定の市屋内スケート場（仮称）のこけら落としとして招致を目指していたスピードスケートの国際大会について、小林眞市長は5日、臨時記者会見を開き、開催地選ばれなかったことを明らかにした。市は2019年12月に開催される日本選手権または日本スプリント選手権を招致する方針に転換。さらに宿泊や人員輸送などの体制を整え、翌2020年2～3月ごろワールドカップ（W杯）開催を目指す考えを示した。</p>
(4)	<p><b>八戸ブックセンター 半年間で来館者10.8万人</b></p> <p>昨年12月にオープンした八戸ブックセンターの約半年間の運営状況は、（5月31日現在）来館者数は約10万8千人、本の販売冊数は約6430冊、販売額は約969万円だった。八戸市によると、当初は一日当たり来館者数300人、販売冊数30冊を目安としていたが、現時点の平均は715人、43冊と想定を上回るペースを維持している。ただ、月ごとの来館者数は減少傾向にあり、5月中は来館者、販売冊数ともに想定を下回る日もあった。市は来館者数を維持するため、主催イベントの強化や、市内書店との連携に力を入れる方針。</p>
(5)	<p><b>是川遺跡 世界遺産登録へ機運醸成</b></p> <p>世界遺産を目指す「北海道・北東北の縄文遺跡群」を構成する是川遺跡を有する八戸市で、遺跡の価値に対する市民の理解を深めようとの動きが活発化している。市は4月から、学校給食用の食器に、縄文土器に関連したデザインを取り入れた。また、発信拠点の市是川縄文館が縄文遺跡群をテーマに開く考古学講座は、参加者が100人を超える盛況ぶりである。世界遺産への挑戦をきっかけに、市内では身近な遺跡に対する親しみや関心が着実に高まっている。</p>
(6)	<p><b>八戸市 飲酒運転根絶条例制定</b></p> <p>八戸市議会が定例会最終日の19日、「飲酒運転を根絶するための社会環境づくり条例」を全会一致で可決した。飲酒運転防止に関する条例制定は青森県内で初めて。八戸署管内の飲酒運転摘発件数が20年以上、県内ワーストの現状を受け、市内の交通安全関連団体が昨年9月、協議会の前身となるプロジェクトを発足。8万人余りから署名を集め、小林眞市長に条例の制定を求める嘆願書を提出するなど活動してきた。条例は、市民や関係業者に対し、飲酒運転予防や再発防止を努力義務として課す。</p>

(7)	<p><b>八戸三社大祭の担い手確保へ 副読本作成</b></p> <p>八戸市は昨年12月に国連教育科学文化機関（ユネスコ）の無形文化遺産登録を受けた八戸三社大祭への子どもたちの関心を高め、将来の担い手の確保につなげようと、小学3年生向けの社会科の副読本を作成している。市によると近年は少子化で参加する子どもたちが減り、多くの山車組が市全域から参加を募っている。副読本の作成は、世界に誇る三社大祭を授業で取り上げ、子どもたちの興味や関心を高めることが目的。7月上旬に全43校と対象児童約1870人に配布する予定。</p>
(8)	<p><b>八戸市長選 10月22日に投開票</b></p> <p>八戸市選管は、任期満了に伴う市長選の日程を10月15日告示、22日投開票とすることを決めた。これまでに立候補を表明したのは4選を目指す現職の小林眞氏のみで、過去の選挙で連携してきた自民、公明両党と共に地盤固めを進めている。国政で自公と対立関係にある民進党は基本的に主戦論を唱え、共産党も無投票を回避するスタンスだが、共に具体的な人選には至っていない。今後対抗馬の擁立が焦点となる。</p>
(9)	<p><b>伝統野菜「糠塚きゅうり」 新手法 露地でも生育早く収穫</b></p> <p>八戸市農業経営振興センターで、伝統野菜「糠塚きゅうり」が今季の収穫期を迎えた。出荷時期を早めるため、早く生育させる栽培方法の調査を進めている今季は、被覆資材で保温効果を高めることで、通常の露地栽培よりも収穫期を1週間から10日早められたという。一般的に価格が高いとされる出回り始めに出荷できるようにして、生産者の所得を増やす狙い。センターは6月中に出荷し、市場価格なども見定める。</p>

【産業】

記事	概要
(10)	<p><b>八戸港からリンゴ輸出 香港へ試験的に海上輸送</b></p> <p>国内外で物流事業を手掛ける港湾運送大手の上組（神戸市）は、青森県産リンゴを八戸港から香港に輸出する試験的な海上輸送を行う。8日にコンテナに入れて内航船に積み込み、現地到着までの輸送時間やリンゴの状態・品質などを検証する。同港から直接、外航路で輸出する体制も視野に入れて取り組みを進める方針。同港のリンゴ輸出が本格実施されれば、港湾の利用促進やコンテナ取扱量の拡大につながり、成果が注目される。</p>
(11)	<p><b>八戸港から香港へ リンゴ試験輸出始まる</b></p> <p>青森県産リンゴを八戸港から香港に海上輸送する試験輸出が8日、物流会社など民間指導で始まった。八戸港からの県産リンゴの輸出は5年ぶり。リンゴは内航コンテナ船で、同日夜に八戸港を出港。13日に経由地の横浜港で外航船に積み替えられ、香港には11日後の19日に到着する予定。八戸港には主要輸出先の台湾や香港に向かう直行便がなく、外航船への積み替えを要するため、輸送時間や費用は現状の物流ルートよりも不利とされる。本格輸送に向けては、海運への移行やコスト抑制の優位性を示すことが重要となる。</p>
(12)	<p><b>スルメイカ漁始まる ～願う豊漁「今年こそ」～</b></p> <p>八戸港で24日、小型イカ釣りによる本年度のスルメイカ漁が始まった。秋にかけて順次、巻き網船、中型イカ釣り船、底引き網船などと盛漁期に入る。スルメイカは2年連続で不調に終わっており、関係者は本年度の漁に期待をかけている。近海での小型イカ釣り船の漁は年内いっぱい行われ、夏から秋にかけて好漁場が形成されれば県内外から100隻近く集まる。仲買人は「昨年是不漁だっただけに今年はたくさん取れてほしい」と願っていた。</p>

## 【地域】

記事	概要
(13)	<p><b>マナー・プロトコル検定 1級に八戸グランドホテル顧問の高畑さん合格（県人初）</b></p> <p>八戸グランドホテル顧問の高畑紀子さん(53)が、さまざまな場面でのマナーや所作などを総合的に評価する「マナー・プロトコル検定」の1級に、青森県で初めて合格した。全国では13人目の取得。検定は、全国でマナーや国際儀礼の普及・啓発、マナー講師の育成を行う「日本マナー・プロトコル協会」（東京都）の主催。今回の検定試験では、和室での作法や電話応対など日常やビジネスの場面で求められるマナーについて、実技中心に審査が行われた。高畑さんは「インターネットが普及して人と対面する機会が減っているからこそ、あいさつや作法の大切さを若い世代にも伝えていきたい」と力を込める。</p>
(14)	<p><b>災害時探索ロボット 八戸高専などが開発</b></p> <p>東北大学と八戸高等工業専門学校は12日、地震などで倒壊した建物内で被災者を捜索するヘビ型ロボットを改良し、障害物を乗り越えてがれき内を進める新型を開発したと発表した。ノズルから高圧空気を噴射して先端部を30～50センチほど浮上させ、段差を越えられる。空気噴射で浮上する機能を持つヘビ型ロボットは世界初という。ノズルを開発した八高専の圓山校長は「人名を救うため時間勝負となる災害現場では有効な機能」と話している。</p>
(15)	<p><b>2015年がん死亡率 青森県男女がワースト</b></p> <p>厚生労働省が5年ごとに公表している都道府県別の年齢調整死亡率で、2015年の青森県の悪性新生物（がん）の死亡率は男女ともに全国ワーストとなった。ほかにも脳疾患、肺炎、糖尿病で全国最悪水準となるなど、あらためて県民の健康意識や受診行動、医療体制の課題が浮き彫りとなった。</p>
(16)	<p><b>元小学校校長の溝江さん 環境教育に長年尽力し環境大臣表彰</b></p> <p>長年環境教育に尽力してきた元小学校校長の溝江康徳さん(72)が、地球環境の保全や美化活動に功績のあった個人や団体をたたえる2017年度の環境大臣表彰に選出された。市立吹上小で校長をしていた02年度から3年間、省エネルギー教育推進モデル校の指定を、県内で初めて受けた。「心も体も健康、そして地球も健康」をテーマに掲げ、760人ほどいた全校児童挙げて、環境問題に取り組んだ。溝江さんは、エコバックを使う、必要のない電気は消すーといった、日常生活でできることから教えてきたという。「どんなに小さなことでも継続してやるのが大事と伝えている」とモットーを語る。</p>

## 【文化・スポーツ】

記事	概要
(17)	<p><b>J F Aが八戸で青森県初のタウンミーティング開催</b></p> <p>日本サッカー協会（J F A）は4日、全国各地のサッカー関係者と意見交換するために開いている「J F Aサッカーファミリータウンミーティング」を、沼館の津波防災センターで行った。青森県での開催は初めて。J F Aは同ミーティングを昨年からは開いており、47都道府県で実施する予定。24番目となった青森県では、県内の選手や指導者ら約90人が参加し、サッカーの現場が抱える課題について議論した。</p>

(18)	<p><b>元宝塚・北翔海莉さん八戸公演開催 ～圧巻の舞台 観客魅了～</b></p> <p>八戸市生まれ元宝塚歌劇団男役トップスター北翔海莉さんの全国ツアー「北翔海莉 1st ALL JAPAN TOUR 2017 "Alrai"」の八戸公演が16日、市公会堂で開かれた。詰め掛けた観客が、魅力あふれる歌とダンスのステージに酔いしれた。曲の合間のトークでは、「やっと生まれ故郷のステージに立つことができた」と八戸への思いを熱く語った。今年の八戸三社大祭の「お通り」に参加することを明かし、「世界一の三社大祭を宣伝していきたい」と意気込んだ。</p>
(19)	<p><b>八戸三社大祭 無形文化遺産登録記念 山車図柄のトランプ誕生</b></p> <p>八戸三社大祭関連の新たな土産品として、三社大祭に参加する山車が図柄になったトランプが誕生した。八戸市の山車組の元代表・泉山彰さんが、三社大祭など「山・鉾・屋台行事」がユネスコの無形文化遺産に登録されたことを記念し、企画した。トランプの数字の面には、昨年の三社大祭に参加した山車27台の写真が印刷され、裏面は各山車組のちょうちんがデザインされている。7月から、はっち内の「カネイリミュージアムショップ」で販売される。価格は1600円（税別）。</p>
(20)	<p><b>五輪レスリング女子4連覇の伊調馨選手に「ギネス世界記録」の認定証</b></p> <p>昨夏のリオデジャネイロ五輪レスリング女子58キロ級で金メダルを獲得し、女子個人種目初の五輪4連覇を達成した伊調馨選手に対する「ギネス世界記録」の公式認定証授与式が6月27日、東京都内で開かれた。伊調選手はリオ五輪後に「五輪レスリング女子での最多金メダル獲得数（4回）」と「五輪女子個人での連続最多優勝回数」の二つでギネス世界記録に認定されていた。終了後の会見で、伊調選手は「レスリングが好きで追求してきた結果で、自分がすごいことを達成した実感はない。すごい人しか頂けないと思っていたギネス世界記録に認定されたのは不思議な気持ち」と語った。</p>